

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 8 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H01388

研究課題名（和文）負債の動態をめぐる比較民族誌的研究：アジア・アフリカ・オセアニア農村社会を中心に

研究課題名（英文）Comparative Ethnographical Study on the Dynamism of Debt

研究代表者

佐久間 寛 (Sakuma, Yutaka)

明治大学・政治経済学部・専任准教授

研究者番号：80726901

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,100,000円

研究成果の概要（和文）：D・グレーバーが拓いた文化人類学的な負債論の地平を、アジア、アフリカ、オセアニアの各地の事例研究を通じて批判的に乗り越えることを目指す本科研プロジェクトでは、全13回の研究会を通じて各々のフィールドについての調査報告（のべ36本の口頭発表）と全体討論を重ね、その成果を（1）2021年度日本文化人類学会公開シンポジウム「人類学からみる現代世界の信用と負債」「人間の経済」に向けての開催、（2）雑誌『フィールド・プラス』の特集「デット」「負債/負目」研究の最前線」（2022年1月）の編纂、（3）論集『負債と信用の人類学：人間経済の現在』（以文社、2023年）の出版などを通じて発信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「負債（Debt）」が借金や債務などの経済的次元と同時に恩や負目などのモラルと関わることに着目したグレーバーは、金融資本の世界史的運動が私的利益の追求という経済的動機ばかりでなく「借りたものは返さねばならない」というモラルに支えられてきたことを解明した。本科研では、こうしたグレーバーの視座を継承しつつも、各地の事例の検証から負債をあえて完済しない社会や負債の計量化を拒む社会の姿を導出し、書籍等の形で発表した。こうして負債のモラルの多元性を明らかにすると同時に、世界的な金融危機を周期的に発生させてきた非人格的な負債の暴力を批判的に再考する余地を示した点に、本科研の学術的および社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：In this project, which aims to critically overcome the horizon of cultural anthropological debt theory pioneered by D. Graeber through case studies in Asia, Africa, and Oceania, we reported on research in each field and hold general discussions through 13 study meetings. The results were published in (1) a symposium entitled “Credit and Debt in the Contemporary World from Anthropological Perspectives: Toward a ‘Human Economy’” by the Japanese Society of Cultural Anthropology in 2021, (2) a special issue of the journal “Field Plus” entitled “Debt: The Frontiers of Research” (January 2022), and (3) disseminated through the publication of the collection “Debt, Credit, and Human Economies: Anthropological Perspectives” (Ibunsha, 2023).

研究分野：文化人類学、アフリカ地域研究

キーワード：負債 人類学 民族誌 経済思想 社会思想

1. 研究開始当初の背景

冷戦崩壊後の世界では、各国における規制緩和や情報技術の発達にともない、金融サービスが飛躍的な拡張をつづけている。貧困者向けのマイクロクレジットや、携帯電話をつうじた送金システムの普及により、この運動はアジア、アフリカ、オセアニアの農村にまでおよびつつある。一方、2008年のリーマンショックにはじまり、欧州の債務危機へと波及した一連の金融不安は、こうした運動の問題点を浮きぼりにした。金融サービスの利用は負債を負うことと同義であり、その「負」の影響はときに人の生存をも揺るがしている。

こうした状況を背景に学の分野を超えて負債をめぐる研究が活発化するなか、個別の債務問題をどう解決するかという点ばかりでなく、「人間にとって負債とは何か」という根本的な点が問いなおされてきた。この点をめぐる画期的な成果が文化人類学者デヴィッド・グレーバーの『負債論』である。同書は、膨大な民族誌的資料を駆使して、負債が単なる経済現象ではなく社会的次元と関わることを論証し、金融資本の世界史的運動が私的利益の追求のみならず「負債は返さねばならない」というモラルに下支えされていることを解明した。西欧と非西欧、社会的負債と経済的負債を総合する展望を示した同書により、負債研究は新たな時代を迎えたといっても過言ではない。

ところがグレーバーの『負債論』には、賛辞や批判は多数あるものの、同書が拓いた展望を発展的に継承した研究はごく限られている。理由のひとつは、同書の射程が広すぎるあまり、個人による検証が難しい点にある。この困難を乗り越えるには複数の専門家の知見を結集する共同研究の手法が有効である。他方、ウォール街占拠運動の理論的指導者であるグレーバーの議論は、負債による不当な支配から人間をいかに解放するかという問題意識に貫かれており、負債をめぐって生起する現実の多元性が十分に検討されているとはいいがたい。

金銭の貸借であれ、義務や負目であれ、負債が人間を隷属化する契機となることは確かである。しかしそれと同時に負債が社会結合や事業を新たに生みだす創造的契機となりうることも否定しがたい。なにより、支配と連帯のうちどちらの面がつつよく顕れるかは個別具体的な状況に依拠しており、抽象的な理論からは説明しきれない。グレーバーは、負債を具体的関係から「脱脈絡化」する抽象化の暴力こそが、負債の経済化(貨幣による計量化)と無際限の増殖を招いたと論じたが、そもそも負債がいかなる人間や自然との関係に脈絡化されていたかという点、たとえば生業や生態環境が負債のあり方にいかなる影響をおよぼすかという点は十分に検討されていない。つまり、負債の「脱脈絡化」を批判的に論じたグレーバーの議論は、それ自体が負債の過剰な「脱脈絡化」にもとづくという問題を抱えている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、こうしたグレーバーの視座をふまえつつ、商業経済が全面化したかのような現代世界においても社会的な負債が経済的な負債とせめぎ合っている現実に着目し、そこから生じる関係性のダイナミズムを人類学的に考察することである。そのことにより、「人間にとって負債とは何か」という問いをあらためて人類学的視座から探求し、ホモ・エコノミクスにかわる新たな人間像を提示する。この作業には、富の蓄積を目的とした商業経済を批判的にとらえかえし、「他者に負う」ことで関係を創造する「人間経済」の可能性を追求する意義がある。

3. 研究の方法

本研究の主対象は、現在のアジア・アフリカ・オセアニアの農村で営まれている比較的小規模な負債をめぐる実践と言説である。欧米の金融や公的債務の研究に比べて、この地域の負債研究は限られているが、そこでこそ新たな金融サービスの普及にともなう負債の再編が活発化している。本研究では、これらの地域で調査を重ねてきた人類学者が、以下4つの共通課題のもとでインテンシヴな調査をおこなう。

課題 「何を負うか」：人が借金といった経済的負債を負うのかそれとも負目や恩といった社会的な負債を負うのかは本研究の前提となるポイントである。ただし重要なのは、両者の区別というより、両者が分かちがたく結びつく局面である。たとえば、パトロンからクライアントに贈られる現金は、返済すべき経済的債務というより、受け手に負目を作り出す社会的債務にあたる。また、オセアニアの貝貨のように、社会的負債をも経済的負債に変換するはずの貨幣自体に独自の社会的価値が付与されているケース いわば社会的負債を媒介するメディアとしての貨幣 もある。

課題 「誰(何)に負うか」：誰に負債を負うかは、負債の性質を左右する問題である。おなじ借金であれ、債権者が両親か金融機関かによって負債の重みは一変する。アジア・アフリカ・オセアニアの農村においては親族、地縁、友人、パトロン - クライアントといった関係が重要性をもつ。さらに債権者が非人間(ノン・ヒューマン)である可能性もある。神、精霊、動物、自然に対する負債が人間社会にいかなる影響をおよぼすかという点は、人間観の更新をめざす本研究にとり必須の論点となる。

課題 「なぜ負うか」：負債の理由は様々であるが、農村社会では農業等の生産活動をめぐる

負債が重要である。一口に農業といっても、茶やコーヒーなどの多年生換金作物の栽培か稲などの一年生食料作物の栽培かによって、また前借される事が現金か、種子・肥料などの投入材か、労働力かによって負債の性質は左右される。結婚、葬儀、進学、教育といったライフステージに付随して生じる負債、新たな事業の立ちあげのために必要な負債、娯楽や賭博のために負う負債も重要な調査対象となる。

課題 「いかに負うか/いかに返すか」：これは負債の制度化の度合いと関わる問いである。協同組合による前貸や村落内の互助などの公的制度を調査する場合には、制度が実際にいかに運営されているかに注視する。逆に制度化されていない負債の場合には、そうしたインフォーマルな実践が経済活動(生産、消費)や社会活動(儀礼、教育)をいかに支えているかに着目する。あわせて重視するのが返済方法である。借り以上のお返しが必要な場合も(有利子負債、ポトランチなどの競争的返礼) 逆に可能な範囲で返せば良い場合(パトロンへの返礼など)もある。また返済期間も論点となる。社会的負債の完済は人間関係の解消につながりかねないため、返済期間が故意に定められないことがおおい。他方、債権者が債務者に返しきれぬ負債を負わせ、可能な限り長期間利子の回収を目論む経済的負債もある。

以上の4課題にそって進めた調査の結果は、各年度に1~2回開催する研究会の場で逐次報告し、理論班の助言を受けながら考察を掘りさげていく(当初の計画では、3年目にD・グレーバーを招いた国際シンポジウムの開催する予定であった)。そこで得られた意見や批判をふまえて全メンバーが論考を執筆、これを取りまとめた共著書を商業出版する。現代アジア・アフリカ・オセアニアの農村を生きる人びとが何を、誰に、なぜ、いかに負うかをあきらかにすることで、「人間にとって負債とは何か」という人類史的な問いに応答する。

4. 研究成果

2019年度は、新型コロナウイルスをめぐる状況が深刻化したことをふまえ、年度後半の研究会を中止にせざるを得なかった。そのため対面的な共同研究の機会も1回にとどまった。とはいえ、上記研究会には、全研究会メンバーにくわえ、若手研究者がオブザーバーとして複数参加し、代表者である佐久間の研究構想を、各参加者が自らの研究方針をふまえながら批判的に検討するという建設的な場となった。具体的には、かならずしも経済的次元に還元しきれない負債という社会的現象の背後に、シェアリング、自律と自由、暴力と死といった問題系がもつれあっているとの展望が得られた。研究会メンバーは、この展望を足がかりに個別の研究を進めた。とりわけ若手研究者には、スリランカやインドネシアでフィールドワークを実施した。

2020年度は、研究会発足2年目にあたる2020年度は、2日間にわたる研究会を2度開催した。内容としては、人類学を専門とするメンバーが、牧畜、祭宴、農業信用、再分配、血贖、債務奴隷といった民族誌的事例の考察を通じて、経済的「負債」を社会的「負目」から捉えなおす作業を進める一方、社会思想・経済思想を専門とするメンバーが、国家論および貨幣論の視点から人類学的負債理論の再検討をおこなった。くわえて第二回研究会では、欧州債務危機を主題とした映像作品『ラ・デット』の共同鑑賞を通じて、マクロな負債をめぐる危機がモラルの危機 借りを返せぬことをめぐる倫理的混乱 を引きおこす仕組みを検討した。以上の研究から(あらためて)明らかになったのは、グレーバーが『負債論』を通じて切り拓いた理論的な地平の革新的意義であり、とりわけ同論のベースとなる「人間の経済」 「富の蓄積ではなく、人間存在の創造と破壊、再編成」に主要な関心をおく経済 概念の重要性であった。なお、2020年9月にグレーバーが旅先のヴェネツィアで逝去した。2021年度に計画していた彼を招いての国際シンポジウムは、永遠に実現しえなくなった。

2021年度は、全4回の研究会における11名による報告を通じて共同研究の深化と問題関心の共有を進めた。その成果は各メンバーが個別に論文等のかたちで公表した。また、当初予定していた国際シンポジウムに代えて、日本文化人類学会との共催により公開シンポジウム「人類学からみる現代世界の信用と負債 「人間の経済」に向けて」(2021年11月6日)をオンラインで開催した。本シンポジウムには300人以上の参加者があり、また『読売新聞』により告知されるなど、学术界を越えた関心が集まった。また、AA研の広報誌『フィールド・プラス』27号にて特集「デット:「負債/負目」研究の最前線」を組み、本科研メンバーが寄稿した。読者アンケートの「興味深かった記事」に同特集の記事が繰り返し挙げられるなど、おおむね良好な反応が得られた。

2022年度は、第1回研究会では研究代表者による中間的総括と全員による所信表明を実施し、第2回研究会では南米アンデスのチーズ生産者、西アフリカ都市部の交際関係、東南アジア焼き畑農耕民に関する報告を行い、第3回研究会ではミクロネシアの儀礼経済、クナップからMMTへ至る貨幣国家理論の展開、フランスの政治人類学におけるD・グレーバーの受容と社会運動に関する報告を行った。総じて本年度の研究活動では、アジア、アフリカ、オセアニア、南米という幅広い地域の民族誌的事例の検討を通じて負債をめぐる経済的なものと社会的なものとの連関を多角的に検討すると同時に、そうした事例の総合的な把握を可能にするための理論整備を人類学・経済学双方の視点から進めた。とりわけ、負債の「延伸可能性」や、貨幣国家理論による共同通貨圏の考察は、本科研ばかりか人文科学的な負債研究にこれまでにない論点をもたらす重要性をもっていたといえる。

2023 年度の特筆すべき成果として、『負債と信用の人類学：人間経済の現在』（佐久間寛編、以文社）を刊行したことがある。本科研の成果の集大成にあたる同書には、D・グレーバーにより拓かれた文化人類学的負債論の地平をアジア・アフリカのフィールドから再検討することを主題とした本科研メンバーの論考にくわえ、グレーバーの邦訳論文や寄稿者による座談会を収録した。総じて同書には、グレーバーがかつて『負債論』で示唆的に言及した「他者を信じ他者に負う」人間経済論の可能性に新たな光を当てたという意義があり、このことにはポスト・ヒューマンの思潮が優勢となり、「人間」なるものの内実があらためて問いなおされている現在だからこそ、あらたな重要性があったといえる。じっさい本書は『図書新聞』、『読書人』などの書評誌に取りあげられたほか、本書の公開合評会に約 200 名の参加者があるなど、すくなく反響をえた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計60件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 中山 智香子	4. 巻 71
2. 論文標題 Habitation and Subsistence : The Thoughts of Karl Polanyi, Ivan Illich, Yoshiro Tamanoi and the Theme of 'Water'	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西大学経済論集	6. 最初と最後の頁 237-257
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32286/00026123	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 中山 智香子	4. 巻 0
2. 論文標題 グローバル・サウス・ユートピア? : 資本主義分析の視角から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ : アメリカからグローバル世界へ	6. 最初と最後の頁 282-302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 生駒美樹	4. 巻 0
2. 論文標題 格差のある二者の共生にみる力学: ミャンマーのチャ農家と労働者によるチャ摘み制度の調整を事例に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生態人類学は挑む SESSION5 関わる・認める	6. 最初と最後の頁 199-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 佐久間 寛、サクマ ユタカ、SAKUMA Yutaka	4. 巻 27
2. 論文標題 デット 「負債 / 負目」研究の最前線	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Field+ : フィールドプラス : 世界を感応する雑誌 / 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 [編]	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/119834	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 酒井 隆史、サカイ タカシ、SAKAI Takashi	4. 巻 27
2. 論文標題 戦前の都市下層社会における貸し借りの論理 赤松啓介「非常民の民俗学」の記録を通して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Field+ : フィールドプラス : 世界を感応する雑誌 / 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 [編]	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/119836	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河野正治	4. 巻 518-2
2. 論文標題 それでも野外調査を見据えるということ : 人類学的感性を育み続けるために	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 19-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河野 正治、カワノ マサハル、KAWANO Masaharu	4. 巻 27
2. 論文標題 首長に負うこと、負わないこと ミクロネシア連邦ポーンペイ島にみる称号と負目	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Field+ : フィールドプラス : 世界を感応する雑誌 / 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 [編]	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/119835	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村圭一郎	4. 巻 7
2. 論文標題 市場から自由と平等を考える ~ はじめてのアナキズム 3	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ちゃぶ台	6. 最初と最後の頁 145-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箕曲在弘	4. 巻 27
2. 論文標題 生活市場主義に向けて ラオス南部におけるコーヒーの取引をめぐる競争と調和	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 環境社会学研究	6. 最初と最後の頁 101-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箕曲 在弘	4. 巻 27
2. 論文標題 金を借りても逃げればよい ラオスコーヒー栽培地域にみる貸し手が負う社会	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Field+ : フィールドプラス : 世界を感応する雑誌 / 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 [編]	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/119837	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山智香子	4. 巻 10(4)
2. 論文標題 Longing for Haute Finance in the 21st Century?: A Neo-Polanyian Approach to the Theory of Money in the Digital Age	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Accounting and Finance Research	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山智香子	4. 巻 0
2. 論文標題 危機増幅のメカニズムから逃れるために	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コロナ危機と未来の選択 : パンデミック・格差・気候危機への市民社会の提言	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野正治	4. 巻 85(1)
2. 論文標題 序(特集: 歓待の人類学)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『文化人類学』	6. 最初と最後の頁 42-55
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河野正治	4. 巻 -
2. 論文標題 政治: ボーンペイの酋長制と民主主義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『オセアニアで学ぶ人類学』	6. 最初と最後の頁 127-138
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井隆史	4. 巻 48(11)
2. 論文標題 ローザ・ルクセンブルク 『資本蓄積論』 資本主義の「崩壊」が「必然」であるとはどういうことか?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 206-210
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井隆史	4. 巻 930
2. 論文標題 気候変動と「人新世」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『世界』	6. 最初と最後の頁 254-259
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井隆史	4. 巻 937
2. 論文標題 未開と野蛮の民主主義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『世界』	6. 最初と最後の頁 207-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井隆史	4. 巻 75(10)
2. 論文標題 この文明には愛がない	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『福音と世界』	6. 最初と最後の頁 36-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井隆史	4. 巻 938
2. 論文標題 そこで開かれた諸可能性は、二度と閉じられることはない：追悼デヴィッド・グレーバー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『世界』	6. 最初と最後の頁 216-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井隆史	4. 巻 48(13)
2. 論文標題 ポリシング、人種資本主義、#Black Lives Matter	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 24-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井隆史	4. 巻 -
2. 論文標題 「危機のなかにこそ亀裂をみだし、集団的な生の様式について深く考えてみなければならない」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『コロナ後の世界を生きる』	6. 最初と最後の頁 233-246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐久間寛	4. 巻 -
2. 論文標題 生を産むアフェクトゥス：ニジェール西部農村の命名式をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『アフェクトゥス (情動)：生の外側に触れる』	6. 最初と最後の頁 181-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山智香子	4. 巻 -
2. 論文標題 貨幣：「市場対国家」を超えて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 分水嶺にたつ市場と社会：人間・市場・国家が織りなす社会の変容	6. 最初と最後の頁 35-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箕曲在弘	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 「フェアトレード贈与」が導く階層的関係の構築 ラオスにおける民衆交易 / フェアトレードコーヒー取引の事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『国際開発研究』	6. 最初と最後の頁 55-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Arihiro Mino	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 Student Activities to Promote Fair-Trade without Emphasizing It: The Difficulty in Constructing the Citizen-Consumer in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Review of Cultural Anthropology	6. 最初と最後の頁 243-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野正治	4. 巻 27
2. 論文標題 首長に負うこと、負わないこと：ミクロネシア連邦ポーンベイ島にみる称号と負目	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 フィールドプラス	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野正治	4. 巻 518(2)
2. 論文標題 それでも野外調査を見据えるということ：人類学的感性を育み続けるために	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 19-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村圭一郎	4. 巻 1165
2. 論文標題 国家と不平等：野蛮と文明の人類学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 7-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村圭一郎	4. 巻 7
2. 論文標題 市場から自由と平等を考える～はじめてのアナキズム3	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ちゃぶ台	6. 最初と最後の頁 145-463
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箕曲在弘	4. 巻 27
2. 論文標題 生活市場主義に向けて ラオス南部におけるコーヒーの取引をめぐる競争と調和	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 環境社会学研究	6. 最初と最後の頁 106-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箕曲在弘	4. 巻 27
2. 論文標題 金を借りても逃げればよい ラオスコーヒー栽培地域にみる貸し手が負う社会	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 フィールドプラス	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山智香子	4. 巻 -
2. 論文標題 危機増幅のメカニズムから逃れるために	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コロナ危機と未来の選択：パンデミック・格差・気候危機への市民社会の提言	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chikako Nakayama	4. 巻 10(4)
2. 論文標題 Longing for Haute Finance in the 21st Century?: A Neo-Polanyian Approach to the Theory of Money in the Digital Age	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Accounting and Finance Research	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山智香子	4. 巻 71(4)
2. 論文標題 居住と生存：ポランニー・イリイチ・玉野井芳郎の思想と『水』のテーマ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西大学経済論集	6. 最初と最後の頁 237-257
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生駒美樹	4. 巻 -
2. 論文標題 格差のある二者の共生にみる力学：ミャンマーのチャ農家と労働者によるチャ摘み制度の調整を事例に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生態人類学は挑む SESSION5 関わる・認める	6. 最初と最後の頁 199-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐久間寛	4. 巻 179
2. 論文標題 人類にとって負債とは何か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊明治	6. 最初と最後の頁 36-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐久間寛	4. 巻 27
2. 論文標題 デット 「負債/負目」研究の最前線	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 フィールドプラス	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井隆史	4. 巻 27
2. 論文標題 戦前の都市下層社会における貸し借りの論理：赤松啓介「非常民の民俗学」の記録を通して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 フィールドプラス	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SAKUMA Yutaka	4. 巻 58
2. 論文標題 Present Condition of the Sudanese Agricultural Complex: The Case of Western Niger	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 African Study Monographs. Supplementary Issue	6. 最初と最後の頁 3-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/244117	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 NAKAMURA Takayuki, SAKUMA Yutaka, LOMO MYAZHIOM Aggee Celestin, HOSHINO Moriyuki	4. 巻 198
2. 論文標題 Construire le monde a partir d'un faille. Presence Africaine, projet-monde : de la negritude a la creolisation...	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Presence Africaine	6. 最初と最後の頁 9-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 SAKUMA Yutaka	4. 巻 -
2. 論文標題 The Potential of Debts that Cannot be Paid	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Challenge of African Potentials: Conviviality, Informality and Futurity	6. 最初と最後の頁 63-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐久間寛	4. 巻 -
2. 論文標題 話とカメラ：『大河での闘い』をめぐる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ジャン・ルーシュ：映像人類学の越境者	6. 最初と最後の頁 89-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箕曲在弘	4. 巻 -
2. 論文標題 フェアトレード・コーヒー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東南アジア文化事典	6. 最初と最後の頁 640-641
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箕曲在弘	4. 巻 -
2. 論文標題 探訪する	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 チャレンジ! 多文化体験ワークブック	6. 最初と最後の頁 55-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野正治	4. 巻 11
2. 論文標題 書評：小林誠著『探求の民族誌 ポリネシア・ツバルの神話と首長制の「真実」をめぐって』（御茶の水書房、2018年）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 コンタクト・ゾーン	6. 最初と最後の頁 435-441
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 河野正治	4. 巻 45
2. 論文標題 日常倫理の人類学 関与・判断・主体性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会人類学年報	6. 最初と最後の頁 175-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野正治	4. 巻 -
2. 論文標題 季節が変わるとき 初物献上のゆくえをめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 マルチグラフィト 人類学的感性を移植する	6. 最初と最後の頁 94-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 NAKAYAMA Chikako, KUWATA Manabu	4. 巻 -
2. 論文標題 An Investigation of social and credit theory of money focusing on regional and crypto currencies	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The proceedings of the 5th biennial international RAMICS conference in Japan	6. 最初と最後の頁 212-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 中山智香子	4. 巻 3314
2. 論文標題 書評 ギャレス・デイル著『カール・ボランニー伝』（平凡社、2019年）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村圭一郎	4. 巻 1150
2. 論文標題 不平等の起源 互酬性と所有の進化論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 25-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村圭一郎	4. 巻 2020年2月15日号
2. 論文標題 書評 ジェームズ・スコット著『反穀物の人類史 国家誕生のディープヒストリー』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日経新聞朝刊	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村圭一郎	4. 巻 930
2. 論文標題 SEKAI Review of Books: 胞子が語る資本主義 アナ・チン著『マツタケ』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 262-264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村圭一郎	4. 巻 5
2. 論文標題 はじめてのアナキズム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ちゃぶ台	6. 最初と最後の頁 50-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生駒美樹	4. 巻 -
2. 論文標題 喫茶文化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東南アジア文化事典	6. 最初と最後の頁 424-425
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生駒美樹	4. 巻 22
2. 論文標題 帳簿調査とフィールドワークのあいだ ミャンマーの茶産地で労働力を集めるしくみ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 FIELD PLUS	6. 最初と最後の頁 24-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生駒美樹	4. 巻 -
2. 論文標題 少数民族組織の活動にみる統制・公共圏・共同体のありよう パラウン(タアン)民族を事例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 転換期のミャンマーを生きる 「統制」と公共性的人类学	6. 最初と最後の頁 243-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生駒美樹	4. 巻 -
2. 論文標題 チャ栽培	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東南アジア文化事典	6. 最初と最後の頁 280-281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深田淳太郎	4. 巻 13
2. 論文標題 宝探しと人類学者	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 くにたち人類学研究	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井隆史	4. 巻 1148
2. 論文標題 赤いローザと黒いローザ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 38-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井隆史	4. 巻 -
2. 論文標題 『追想にあらざ』によせてーエキストリームなものラディカルなもの	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 追想にあらざー一九六九年からのメッセージ	6. 最初と最後の頁 9-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計43件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 河野正治
2. 発表標題 祭宴の「仕事」と取り纏われた成果：ミクロネシア・ポーンペイ島の首長制にみる権威・労働・評価
3. 学会等名 日本文化人類学会第55回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河野正治
2. 発表標題 西洋人との出会いをルーツとする親族集団：ミクロネシア・ポーンペイ島の系譜語りにみる19世紀の他者接触とその真実性
3. 学会等名 第39回日本オセアニア学会研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松村圭一郎
2. 発表標題 「わたし」とおして世界を探究する
3. 学会等名 第72回関西社会学会大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松村圭一郎
2. 発表標題 負債と労働の関係について：D. グレーバーの労働論
3. 学会等名 日本文化人類学会公開シンポジウム『人類学からみる現代世界の信用と負債 「人間の経済」に向けて』
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 箕曲在弘
2. 発表標題 金を借りても逃げればよい ラオスコーヒー栽培地域にみる貸し手が負う社会
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所『フィールドプラス』カフェ「デット 「負債/負目」研究の最前線」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Chikako Nakayama
2. 発表標題 Money as a means of payment in international and communal context of our age
3. 学会等名 International Karl Polanyi Conference (online)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐久間寛
2. 発表標題 われわれは債務を返せない：トマ・サンカラの負債論
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐久間寛
2. 発表標題 他者を信じ他者に負う：人類学から見る信用と負債の世界
3. 学会等名 文化人類学会一般公開シンポジウム『人類学からみる現代世界の信用と負債—「人間の経済」に向けて』
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 酒井隆史
2. 発表標題 『万物の黎明 (The Dawn of Everything)』の衝撃
3. 学会等名 京都人類学研究会1月季節例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 生駒美樹
2. 発表標題 チャ摘みをめぐる農家と労働者の関係 ミャンマー、シャン州パラウン自治区ナムサン郡を事例に
3. 学会等名 東南アジア学会オンライン例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 生駒美樹
2. 発表標題 チャ摘みをめぐる農家-労働者関係の動態： ミャンマー、シャン州パラウン自治区ナムサン郡を事例に チャ摘みをめぐる農家-労働者関係の動態： ミャンマー、シャン州パラウン自治区ナムサン郡を事例に
3. 学会等名 東南アジア学会第102回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 生駒美樹
2. 発表標題 経済的・社会的格差のある二者の共生ーミャンマーのチャ農家とチャ摘み労働者の事例から
3. 学会等名 第26回生態人類学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野正治
2. 発表標題 首長の「ご意向」と島民の「仕事」：ミクロネシア・ポーンペイ島にみる伝統的権威と解釈労働
3. 学会等名 第906回東京都立大学・首都大学東京社会人類学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野正治
2. 発表標題 歓待のエスノグラフィ：他者への関係づけをめぐる人類学的考察
3. 学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野正治
2. 発表標題 「外来の人」を始祖とする人々：ミクロネシア・ポーンペイ島における他者接触の歴史と親族関係の想起
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究会「オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐久間寛
2. 発表標題 バターとネクタイ：ポスト冷戦期西アフリカの恋愛と自由
3. 学会等名 日本文化人類学会第 54 回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nakayama Chikako, Kuwata Manabu
2. 発表標題 'an investigation of the social and credit theory of money, focusing on the contemporary situation of monetary sovereignty' and beyond,
3. 学会等名 RAMICS Roundtable OnLine (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 箕曲在弘
2. 発表標題 海外短期滞在経験からいかに自己変容を促すのか 大学における短期海外研修(スタディツアー)を事例に
3. 学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 箕曲在弘
2. 発表標題 「生活市場主義」の構築 ラオス南部コーヒー生産地域におけるコーヒー生産をめぐる競争と連帯
3. 学会等名 環境社会学会第62回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野正治
2. 発表標題 祭宴の「仕事」と取り纏われた成果：ミクロネシア・ポーンペイ島の首長制にみる権威・労働・評価
3. 学会等名 日本文化人類学会第55回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河野正治
2. 発表標題 趣旨説明：人類学的な歓待論の今日的な意義をめぐって
3. 学会等名 日本文化人類学会課題研究懇談会「歓待の人類学」2021年度第1回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河野正治
2. 発表標題 西洋人との出会いをルーツとする親族集団：ミクロネシア・ポーンパイ島の系譜語りにみる19世紀の他者接触とその真実性
3. 学会等名 第39回日本オセアニア学会研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松村圭一郎
2. 発表標題 招待講演 「わたし」とおして世界を探究する
3. 学会等名 第72回関西社会学会大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松村圭一郎
2. 発表標題 負債と労働の関係について：D. グレーバーの労働論
3. 学会等名 日本文化人類学会公開シンポジウム『人類学からみる現代世界の信用と負債 「人間の経済」に向けて』
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 箕曲在弘
2. 発表標題 コーヒーの仲買人は高利貸しなのか？ ラオスのコーヒー産地における農家と仲買人の関係
3. 学会等名 日本文化人類学会公開シンポジウム『人類学からみる現代世界の信用と負債 「人間の経済」に向けて』
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Chikako Nakayama
2. 発表標題 Money as a means of payment in international and communal context of our age
3. 学会等名 International Karl Polanyi Conference (online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 生駒美樹
2. 発表標題 生葉売買をめぐる製茶工場と農家の駆け引き：ミャンマー、シャン州ナムサン郡を事例に
3. 学会等名 第31回熱帯生態学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐久間寛
2. 発表標題 われわれは債務を返せない：トマ・サンカラの負債論
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐久間寛
2. 発表標題 他者を信じ他者に負う：人類学から見る信用と負債の世界
3. 学会等名 文化人類学会一般公開シンポジウム『人類学からみる現代世界の信用と負債－「人間の経済」に向けて』
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 酒井隆史
2. 発表標題 『万物の黎明 (The Dawn of Everything)』の衝撃
3. 学会等名 京都人類学研究会1月季節例会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 SAKUMA Yutaka
2. 発表標題 Dette et societe au Niger
3. 学会等名 Seminaire de UMR (7367) , Dynamiques Europeennes "Mondialisation et mutations sociales en Afrique" (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 SAKUMA Yutaka
2. 発表標題 Le Socrates noir parle ... : Alioune Diop et l'organisation des etudiants noirs
3. 学会等名 Presence Africaine : Espaces, langues, cultures, politiques et societes dans l'espace francophone (Afrique, Ameriques, Asie, Europe) du colonial au post-colonial ((国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐久間寛
2. 発表標題 負債の力を問いなおす：趣旨説明
3. 学会等名 AA研共同利用共同研究課題「負債の動態に関する比較民族誌的研究」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐久間 寛
2. 発表標題 『テントを切り裂けばバターがある。放っておく?』：現代ニジェールにおける恋愛、移動、自由
3. 学会等名 国立民族学博物館研究プロジェクト「ネオリベラリズムのモラリティ」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SAGAWA Toru
2. 発表標題 How to become friends with “Enemy” : Gift, hospitality and vulnerability in the Daasanach of East Africa (online presentation)
3. 学会等名 JSPS International Workshop “Resonance of Alterity: Way of Coexistence in Pastoral Society in East Africa” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SAGAWA Toru
2. 発表標題 Land rush, human mobility and conflict avoidance in an East African Pastoral Society
3. 学会等名 International Conference on Resources and Human Mobility (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SAGAWA Toru
2. 発表標題 Pastoralist starts fishing: Dynamics of cultural value on non-pastoral activity among the Daasanach in East Africa, 2009-2015
3. 学会等名 IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) 2019 Inter-Congress “World Solidarities” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 箕曲在弘
2. 発表標題 ラオス概論
3. 学会等名 ISC勉強会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野正治
2. 発表標題 ミクロネシア連邦における人類学的研究の展開 戦後のアメリカ統治政策との関連から
3. 学会等名 「太平洋島嶼国の貨幣と市場経済の生成と発展に関する研究 理論と実践」研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野正治
2. 発表標題 今日の伝統的権威者をめぐる葛藤と判断 ミクロネシア・ポーンペイ島における葬儀のモラルと実践
3. 学会等名 第82回神戸人類学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野正治
2. 発表標題 趣旨説明
3. 学会等名 日本文化人類学会課題研究懇談会「歓待の人類学」第3回公開研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 NAKAYAMA Chikako, KUWATA Manabu
2. 発表標題 An Investigation of social and credit theory of money focusing on regional and crypto currencies
3. 学会等名 The 5th biennial international RAMICS (Research Association for Monetary Innovation and Currency System) conference (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松村圭一郎
2. 発表標題 還世界を渡り歩く～そして人類学者は腹を下す
3. 学会等名 京大人文学研究所「生と創造の探求」班研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 松村圭一郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミシマ社	5. 総ページ数 240
3. 書名 くらしのアナキズム	

1. 著者名 松村圭一郎、コクヨ野外学習センター	4. 発行年 2021年
2. 出版社 黒鳥社	5. 総ページ数 302
3. 書名 働くことの人類学【活字版】 仕事と自由をめぐ?る8つの対話	

1. 著者名 武内進一 + 中山智香子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学出版会出版会	5. 総ページ数 384
3. 書名 ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ：アメリカからグローバル世界へ	

1. 著者名 Yutaka SAKUMA	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Presence Africaine Editions	5. 総ページ数 535
3. 書名 Index de Presence Africaine par auteur (1947-2016)	

1. 著者名 酒井 隆史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 256
3. 書名 ブルシット・ジョブの謎 クソどうでもいい仕事はなぜ増えるか	

1. 著者名 ビエール・クラストル、酒井 隆史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 洛北出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 国家をもたぬよう社会は努めてきた	

1. 著者名 デヴィッド・グレーバー、酒井 隆史、芳賀 達彦、森田 和樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 442
3. 書名 ブルシット・ジョブ	

1. 著者名 箕曲 在弘、二文字屋 脩、小西 公大	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 200
3. 書名 人類学者たちのフィールド教育	

1. 著者名 生駒美樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京外国語大学・博士論文	5. 総ページ数 198
3. 書名 チャ/茶とともに生きる人びと 転換期ミャンマーを生きる山地民の経済人類学的研究	

1. 著者名 松村圭一郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミンマ社	5. 総ページ数 240
3. 書名 くらしのアナキズム	

1. 著者名 松村圭一郎、コクヨ野外学習センター	4. 発行年 2021年
2. 出版社 黒鳥社	5. 総ページ数 302
3. 書名 働くことの人類学 仕事と自由をめぐる8つの対話	

1. 著者名 Takayuki Nakamura, Yutaka Sakuma and Aggee Celestin Lomo Myazhiom	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Histoire et Anthropologie	5. 総ページ数 414
3. 書名 Presence africaine : Vers de nouvelles perspectives politiques et culturelles: Identite, memoires, resistances entre l ' Afrique, l ' Europe et les Ameriques de la colonisation a la post-colonie	

1. 著者名 Yutaka SAKUMA	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Presence Africaine Editions	5. 総ページ数 535
3. 書名 Index de Presence Africaine par auteur (1947-2016)	

1. 著者名 酒井 隆史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 256
3. 書名 ブルシット・ジョブの謎 クソどうでもいい仕事はなぜ増えるか	

1. 著者名 松村 圭一郎、中川 理、石井 美保	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 224
3. 書名 文化人類学の思考法	

1. 著者名 酒井 隆史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 632
3. 書名 自由論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>研究会ホームページ 「負債の動態をめぐる比較民族誌的研究：アジア・アフリカ・オセアニア農村社会を中心に」 https://www.debtstudies.net/ 「負債の動態に関する比較民族誌的研究」 http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/projects/jrp/jrp250</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中山 智香子 (Nakayama Chikako) (10274680)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	酒井 隆史 (Sakai Takashi) (20343410)	大阪公立大学・大学院現代システム科学研究科 ・教授 (24405)	
研究分担者	河野 正治 (Kawano Masaharu) (20802648)	東京都立大学・人文科学研究科・准教授 (22604)	
研究分担者	松村 圭一郎 (Matsumura Keiichiro) (40402747)	岡山大学・社会文化科学学域・准教授 (15301)	
研究分担者	深田 淳太郎 (Jyuntaro Fukada) (70643104)	三重大学・人文学部・准教授 (14101)	
研究分担者	箕曲 在弘 (Minoo Arihiro) (70648659)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	生駒 美樹 (Ikoma Miki) (70838797)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・講師 (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------